

2022年3月期第2四半期連結決算

2021年11月19日

代表取締役社長 池見 賢



1. 2022年3月期通期計画に対する進捗

売上高の進捗率は50%。営業利益の進捗率は63%、経常利益の進捗率は66%と順調に推移。

	2021年9月期実績 (億円)	2022年3月期計画 (億円)	進 捗 率
売 上 高	4,122	8,200	50%
営業利益	125	200	63%
経常利益	139	210	66%

2. セグメント別進捗率

(単位：億円)

	売上高			営業利益		
	21年9月期	年間計画	進捗率	21年9月期	年間計画	進捗率
水産資源セグメント	2,506	4,991	50%	61	83	73%
加工セグメント	1,475	2,922	50%	48	94	51%
物流セグメント	74	165	45%	6	18	33%
その他	67	122	55%	7	5	140%
全社	0	—	—	3	0	—
合計	4,122	8,200	50%	125	200	63%

3-①. 施策<水産資源セグメント (漁業ユニット)>

(単位：億円)

セグメント	ユニット	(収益認識適用後)			営業利益		
		21年9月期	年間計画	進捗率	21年9月期	年間計画	進捗率
水産資源	漁業	134	290	46%	△6	11	—

漁業ユニット



メロ漁獲
魚価は回復



収支改善傾向

海外まき網事業
(カツオ)
不採算の漁船の運航停止



今後の改善に期待

3-②. 施策<水産資源セグメント (養殖ユニット)>

(単位：億円)

セグメント	ユニット	(収益認識適用後)			営業利益		
		21年9月期	年間計画	進捗率	21年9月期	年間計画	進捗率
水産資源	養殖	68	133	51%	△ 4	△ 14	—

養殖ユニット



養殖魚の在庫調整が進み
需給関係が正常化

ブリは、販売価格が上昇

業務用ルートへの回復

水産研究教育機構との共同研究
完全養殖クロマグロの
新しい技術開発に着手

完全養殖クロマグロ
コスト削減、付加価値販売強化

クロマグロやカンパチの
販売を強化

3-③. 施策＜水産資源セグメント（水産商事ユニット 荷受ユニット）＞

(単位：億円)

セグメント	ユニット	売上高（収益認識適用後）			営業利益		
		21年9月期	年間計画	進捗率	21年9月期	年間計画	進捗率
水産資源	水産商事	749	1,478	51%	26	32	81%
	荷受	848	1,744	49%	3	5	60%

水産商事ユニット

コロナ禍からの需要回復

買付価格上昇 供給不安

売価への転嫁

大半の魚価が上昇

他社商流の取り込み

水産加工品の販売力強化

荷受ユニット

好調な市場に向けての販売の強化

水産商事ユニットとの人事交流

着実な成果を実現

人材の育成を強化



3-④. 施策<水産資源セグメント (海外ユニット)>

(単位：億円)

セグメント	ユニット	(収益認識適用後)			営業利益		
		21年9月期	年間計画	進捗率	21年9月期	年間計画	進捗率
水産資源	海外	707	1,346	53%	42	49	86%

海外ユニット

北米

資源が管理されている水産物の調達強化

生産工場での品質管理の向上

日本はもとより、北米、欧州、アジアのマーケットへの販売を拡大し、
収益の安定化と成長を目指す

欧州

水産物の需要が伸びている

今後の欧州事業の拡大が期待

タイ

ペットフード事業は、好調に推移

鶏肉価格の上昇

コスト削減と工場の稼働率の維持・向上に注力

3-⑤. 施策＜加工セグメント（家庭用冷凍食品ユニット 家庭用加工食品ユニット）＞

（単位：億円）

セグメント	ユニット	売上高（認識適用後）			営業利益		
		21年9月期	年間計画	進捗率	21年9月期	年間計画	進捗率
加工	家庭用冷凍食品	267	506	53%	11	19	58%
	家庭用加工食品	175	358	49%	14	24	58%

家庭用冷凍食品ユニット

ライフスタイルの変化 と 需要のシフト



家庭用加工食品ユニット

堅調な家庭内需要が期待される

主食系商品、惣菜、時短・簡便性を追求した商品の販売に注力

- ・原材料価格の上昇
- ・コスト削減に取り組むとともに、値上げを予定

原料確保に配慮の上、積極的な販売を進め、規模拡大を図る

3-⑥. 施策＜加工セグメント（業務用食品ユニット）＞

（単位：億円）

セグメント	ユニット	売上高 （収益認識適用後）			営業利益		
		21年9月期	年間計画	進捗率	21年9月期	年間計画	進捗率
加工	業務用食品	564	1,190	47%	9	22	41%

業務用食品ユニット

量販店惣菜、コンビニエンスストア、生協の宅配、
介護食の市場向け販売を強化

アイテム数の削減

・高収益商品の拡販
・不採算商品を見直す



生産や事業運営の効率化や
ローコストオペレーション体制へシフト

利益率の改善に努める

3-⑦. 施策＜加工セグメント（畜産ユニット 化成ユニット）＞

（単位：億円）

セグメント	ユニット	売上高 （収益認識適用後）			営業利益		
		21年9月期	年間計画	進捗率	21年9月期	年間計画	進捗率
加工	畜産	379	688	55%	4	10	40%
	化成	90	180	50%	9	19	47%

畜産ユニット

- ・海外食肉産地の生産能力低下
- ・買付相場の上昇による採算の悪化

苦戦が予想されるが、
産地の変更や加工度の向上で、
付加価値化、収益の改善を図る

化成ユニット

DHA、EPA、コンドロイチンは好調に推移

フリーズドライ食品の需要拡大に期待

3-⑧. 施策＜物流セグメント（物流ユニット）＞

（単位：億円）

セグメント	ユニット	（ 売上 高 後 ） （ 収益 認識 適用 ）			営 業 利 益		
		21年9月期	年間計画	進捗率	21年9月期	年間計画	進捗率
物流	物流	74	165	45%	6	18	33%

物流ユニット

- ・在庫数量や保管在庫数量の減少
- ・厳しい事業環境の継続が予想される

保管はもとより輸配送に関する
ニーズが増加すると見込まれる

積極的に、貨物の集荷活動に取り組む

2021年4月新設 名古屋物流センター
グループの冷凍食品の保管・輸配送を開始



4. 次期中期経営計画

次期中期経営計画

現中期経営計画の最終年度であり、
次期中期経営計画の策定に取り組んでいる

重点課題の見直しに着手
サステナビリティと経営の統合を実現

策定が完了次第、今年度中公表の見通し

【参考】ユニット別 売上高/営業利益 進捗率

(単位：億円)

セグメント	ユニット	売上高 (収益認識適用後)					営業利益				
		21年9月期	20年9月期	増減	年間計画	進捗率	21年9月期	20年9月期	増減	年間計画	進捗率
水産資源	漁業	134	149	△ 15	290	46%	△ 6	8	△ 14	11	—
	養殖	68	52	16	133	51%	△ 4	△ 9	5	△ 14	—
	水産商事	749	709	40	1,478	51%	26	14	12	32	81%
	荷受	848	799	50	1,744	49%	3	△ 6	9	5	60%
	海外	707	655	52	1,346	53%	42	33	9	49	86%
セグメント小計		2,506	2,363	142	4,991	50%	61	40	21	83	73%
加工	家庭用冷凍食品	267	257	10	506	53%	11	9	2	19	58%
	家庭用加工食品	175	182	△ 7	358	49%	14	16	△ 2	24	58%
	業務用食品	564	529	35	1,190	47%	9	3	7	22	41%
	畜産	379	352	27	688	55%	4	6	△ 2	10	40%
	化成	90	86	4	180	50%	9	9	△ 0	19	47%
セグメント小計		1,475	1,407	68	2,922	50%	48	43	5	94	51%
物流	物流	74	78	△ 4	165	45%	6	10	△ 4	18	33%
その他		67	71	△ 4	122	55%	7	7	△ 1	5	140%
全社		0	0	0	—	—	3	3	0	0	—
合計		4,122	3,920	202	8,200	50%	125	102	22	200	63%

お問い合わせ先

マルハニチロ株式会社 経営企画部 IRグループ
メール：ir-info@maruha-nichiro.co.jp

Thank You



MARUHA NICHIRO

海といのちの未来をつくる

当資料に記載されております計画や見通し、戦略など歴史的事実でないものは将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点で入手できる情報から得られた判断に基づいております。実際の業績は様々な重要要素により、これらの見通しとは異なる結果をもたらしうることをご承知おきください。また、本資料の著作権やその他書類にかかる一切の権利はマルハニチロ株式会社に属します。